

第5回 全日本ジュニアライフセービング・プール競技会 全日本ユースライフセービング・プール競技会 チーム/選手 参加募集要項	Jr/Yh
	チーム1 次要項

第5回全日本ジュニア/ユースライフセービング・プール競技会
実行委員会

- ◆日程 2017年 12月16日(土)～17日(日)
- ◆会場 宮城県総合運動公園総合プール(宮城県宮城郡利府町)(セントラルスポーツ宮城G2 1プール)
- ◆主催 特定非営利活動法人日本ライフセービング協会
- ◆後援(予定) 宮城県、宮城県教育委員会、利府町、利府町教育委員会、利府町観光協会
- ◆助成 公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業
- ◆協力 東北ライフセービング協議会
(秋田LSC、釜石LSC、気仙沼LSC、つがるLSC、盛岡LSC、山形LSC、仙台大学LSC)

◆競技種目

◇個人種目

1. 50m 障害物スイム 小学生 3.4年(女子)
2. 50m 障害物スイム 小学生 3.4年(男子)
3. 50m 障害物スイム 小学生 5.6年(女子)
4. 50m 障害物スイム 小学生 5.6年(男子)
5. 100m 障害物スイム 中学生(女子)
6. 100m 障害物スイム 中学生(男子)
7. 100m 障害物スイム 高校生(女子)
8. 100m 障害物スイム 高校生(男子)
9. 100m レスキューチューブトウ 小学生3.4年(女子)
10. 100m レスキューチューブトウ 小学生3.4年(男子)
11. 100m レスキューチューブトウ 小学生5.6年(女子)
12. 100m レスキューチューブトウ 小学生5.6年(男子)
13. 100m マネキントウ・ウィズフィン 中学生(女子)
14. 100m マネキントウ・ウィズフィン 中学生(男子)
15. 100m マネキントウ・ウィズフィン 高校生(女子)
16. 100m マネキントウ・ウィズフィン 高校生(男子)
17. 50m マネキンキャリアー 中学生(女子)
18. 50m マネキンキャリアー 中学生(男子)
19. 50m マネキンキャリアー 高校生(女子)
20. 50m マネキンキャリアー 高校生(男子)

◇チーム種目

21. 4 × 50m 障害物リレー (小学生) ※複数可
22. 4 × 50m 障害物リレー (中学生) ※複数可

- 23. 4 × 50m 障害物リレー (高校生) ※複数可
- 24. ラインスロー (中学生) ※1組2名まで
- 25. ラインスロー (高校生) ※1組2名まで
- 26. 4 × 50m レスキューチューブリレー (小学生) ※複数可
- 27. 4 × 50m メドレーリレー (中学生) ※複数可
- 28. 4 × 50m メドレーリレー (高校生) ※複数可
- 29. 4 × 25m マネキンリレー (高校生) ※複数可

- 下線のある種目は、タイム決勝で行う。
- チーム種目は、男女混合を可とする。
- ラインスロー以外の種目については、1クラブで複数組の出場を可とする。但し、同一選手が複数組に出場することは不可。ラインスローは1組2名までとする。
- 今大会において ラインスロー (中学生) については、クロスバーの位置を「スタートする側のプールの端から10mの地点」に変更して競技を行うこととする。
- 小学生障害物スイムについては、50mに変更して競技を行うこととする。
- 「100mレスキューチューブトウ」「4×50mレスキューチューブリレー」については参加規程内に記載のルール参照のこと。

◆競技方法

- ① 競技は日本ライフセービング協会「競技規則2016年版」に則り、本大会競技規程により実施する。
- ② 個人種目、チーム種目を実施する。
- ③ 個人種目のエントリーは、選手1名につき2種目までとする (チーム種目は含まない)。
- ④ 下線のある種目はタイム決勝で行う。予選を予定している種目において、出場者が8名以下の場合、予選は行わず決勝とする。
- ⑤ 男女ともに以下の区分に分けて行います。

【ジュニア】

- 1. 小学生 3.4年 (女子)
- 2. 小学生 3.4年 (男子)
- 3. 小学生 5.6年 (女子)
- 4. 小学生 5.6年 (男子)

【ユース】

- 5. 中学生 (女子)
- 6. 中学生 (男子)
- 7. 高校生 (女子) ※または同様の年齢に達していること
- 8. 高校生 (男子) ※または同様の年齢に達していること

◆タイムテーブル

別紙「タイムテーブル」参照。エントリー集計後、詳細は2次要項でお知らせします。

◆認定審判員の選出について (本大会に選手登録をしていない方)

他の公式競技会と同様に、各チームの参加人数に応じた認定審判員の選出をお願いいたします。大会運営を円滑にするための導入措置となります。ご理解とご協力のほどお願いいたします。詳細は、大会参加規程をご確認ください。

◆表彰

競技種目の上位1位から8位を入賞とします。また、今大会ではスポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成により、1位から3位は表彰式でメダルを授与します（次回は未定）。なお、チーム総合表彰は行いません。

◆参加費

申込締切日までにお振込みをお願いいたします。 振込締切；2017年11月11日（土）

【ジュニア】

◇小学生 3,000円/人

【ユース】

◇中学生 3,000円/人

◇高校生 3,500円/人

◇JLA 高校生会員 3,000円/人

※JLA 高校生会員は、大会申込締切日までに JLA 会員手続(会員登録と年会費振込)が完了していること。

申込締切後であっても、エントリーミスによる出場種目の変更が可能です。

ただし、申込締切時にエントリーされている（選手登録している）方のみ対象とし、新たな選手のエントリーは認められません。

また、変更手数料として、1つの変更に付き、3,000円の手数料を頂戴いたします。振込先は参加費と同様の口座です。期限内に必ず振込下さい。（小学生/中学生/高校生 一律共通）

期限内に変更手数料の振込のない場合は、変更を受付ません。

例： 種目を1つ変更＝＋3,000円 種目を2つ変更＝＋6,000円

◆競技会参加とライフセービング資格連動のご案内

ライフセーバーが集う競技会としての位置づけから、参加規程と資格所有（または推奨）を連動させています。別紙「競技会参加規程とライフセービング資格連動の件」を参照ください。

<小学生> 資格連動の規定はございません。

<中学生> BLSおよびWS → 【推奨】

<高校生> BLS → 【推奨】、WS → 【資格所有】

※【推奨】の場合、資格を所有していなくても大会参加は可能です。

※ 高校生はWS資格の所有が必須になります。

◆代表者会議

競技上の注意事項等について説明する代表者会議を下記に開催予定です。詳細は2次要項でお知らせします。

① 日時 12月16日（土） 10時（予定）

② 会場 プール内会議室（予定）

◆宿泊について

各チームにてご手配ください。

◆移動手段について

JR東北本線「利府駅」下車

JR利府駅より宮城交通バス「菅谷台経由」もしくは「青葉台経由」のバスで約10分

総合体育館・プール・テニスコート等をご利用の方は「菅谷台4丁目」バス停下車

JRで「利府駅」までお越しの際は、「仙台市内」までの乗車券では「利府駅」で乗り越しの精算が必要となり、時間がかかりますので、乗車券は「利府駅」までお買い求めください。

※別紙 「JR・バス時刻表」を参照下さい

◆会場の駐車場について

別紙「アクセス・駐車場」参照。

◆2次要項について

エントリーチームには、大会開催日の1週間前を目処に2次要項をお送りします。

◆申込方法

- ① 日本ライフセービング協会の大会ホームページから関連書類をダウンロードしてください。
- ② チーム単位でお申し込みください。ただし、チーム単位で編成できない場合に限り、個人単位での申込みを可とします。提出物はデータファイル送信と書類郵送があります。
- ③ チーム種目のみに参加する選手も参加費は必要です。申込用紙で出場登録してください。
- ④ 申込締切
 1. データ提出締切；2017年11月11日（土） 24：00受信分まで
 - データ送信先 **compe@jla.gr.jp**
 2. 郵送提出締切 ；2017年11月11日（土） 消印有効分まで
 - 〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-18 トップスビル 日本ライフセービング協会

提出方法提出書類等の概要		提出方法	提出期限(締切)
データ/書類	●チーム/選手エントリーデータ (チームエントリーフォームA・B・C)	メール	11月11日(土)24:00受信分まで
	●同意書 (チームエントリーフォームD)	郵送	11月11日(土)当日消印有効
	●審判員申込用紙	郵送またはメール	11月11日(土)24:00受信分 11月11日(土)消印有効(郵送)
	●(該当者のみ) エントリーミスによる出場種目の変更の 申込エクセルデータ	メール	11月24日(金)エントリーリストのホームページ掲載時～12月1日(金)24:00受信分
振込	●参加費の振込	「大会エントリーの手引き」、 をご参照下さい	11月11日(土)当日消印有効
	●(エントリーミスによる出場種目の変更希望者のみ) 変更手数料	参加費振込先と同様の口座	12月1日(金)当日消印有効
注)	※締切りを過ぎたものや書類の不備、上記の提出書類が揃っていない場合は、受け付けませんので、ご了承ください。 ※参加規程を満たしていない場合、参加費の未納等により、大会参加を受け付けない場合がありますのでご注意ください。 ※参加申し込み締切り日までに、会員登録および会費納入の手続きをされていない団体・個人会員の方(チーム選出の認定審判員も含む)は、本大会に出場できませんので、予めご了承下さい。		

(次頁に続く)

ライフセービングスポーツクリニック

◆日時

12月16日(土) 競技会場プール、11時～12時(水着でプールサイドに5分前集合)
12月17日(日) 競技会場プール、8時30分～9時30分(水着でプールサイドに5分前集合)

◆内容

12月16日(土) ※1種目を選択(実施中の変更は不可)
障害物: 障害ネットの潜り方
マネキン: マネキンの運び方、マネキンのピックアップ(引き上げ方)
フィン: フィンスイム、フィンを着用してマネキンにレスキューチューブを巻く方法
12月17日(日) ※1種目を選択(実施中の変更は不可)
ラインスロー: スローラインの巻き方、投げ方
マネキン: マネキンの運び方、マネキンのピックアップ(引き上げ方)
フィン: フィンスイム、フィンを着用してマネキンにレスキューチューブを巻く方法
チューブトウ: レスキューチューブを巻く方法

◆対象

プール競技会に参加する小学生・中学生および高校生

◆参加費

無料

◆申込方法

「選手申込用紙B」にあるクリニックの欄から希望する種目を選択してください。
「選手申込用紙D」の同意書を提出してください。

◆備考

フィンは各自でご用意ください
指導はJLAハイパフォーマンスチームのコーチ/選手が行います。

◆お問い合わせ先

日本ライフセービング協会事務局
〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-18 トップスビル1階 TEL: 03-3459-1445 FAX: 03-3459-1446

(以上)

全日本ジュニア ライフセービング・プール競技会 全日本ユース ライフセービング・プール競技会 【参加規程】

1 参加資格

選手の参加資格は下記を満たしている者、若しくは主催団体が特別に参加を認めた者でなければならない。

- 1-1 選手は、大会初日に各競技種目の区分またはそれと同様の年齢に達していること。
- 1-2 選手は、ライフセービングを志している者とする。
- 1-3 選手は、自分の出場する種目のルールを熟知していること。
- 1-4 選手は、ライフセービングの競技であることを理解し、まずは自分の安全を確保するため十分練習を積まなければならない。

2 チーム構成

- 2-1 チームは学校もしくはクラブなど、同じ団体に所属している選手により構成されていなければならない。
- 2-2 チーム内からは、必ず代表者を1名選出すること。

3 出場登録

- 3-1 選手は、あらかじめ所定の申込用紙（データ）を用い出場登録をしなければならない。なお、登録後の出場種目の変更および未登録種目への出場はできない。
- 3-2 出場登録は1名につき2種目までとする。ただし、チーム種目は除く。
- 3-3 選手個人の技術や体力などを充分考慮してエントリーすること。

4 ユニフォーム及び競技中の衣類

- 4-1 式典や表彰式および競技に適したユニフォーム（なければジャージ等）、水着、キャップを持たなければならない。ラッシュガードは、主催団体から特別な指示がない限り競技中、任意に着用することができる。
- 4-2 ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般常識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる選手も競技に参加することができない。
- 4-3 キャップは、チーム全員が同様の色とパターンのキャップでなければならない。スタートの後に、キャップが取れたり、失ったりした場合、違反なしに競技が終了できていれば失格とはならない。
- 4-4 チームのユニフォーム、水着、キャップ、ラッシュガードに競技会のスポンサーと対立するような商標、商標名があると主催団体が判断した場合、その対応は主催団体の指示に従わなければならない。
- 4-5 キャップを準備していない選手にあっては、当協会が準備したキャップを着用して参加すること。

5 参加費

- 5-1 参加費は、参加申込締切日までに支払わなければならない。
- 5-2 変更手数料は、あらかじめ指定された期日までに支払わなければならない。
- 5-3 参加申込締め切り後の出場登録の取り消し、天候その他の理由により、大会のタイムスケジュール変更や、やむを得ず中止になった場合でも参加費は返還されない。

6 認定審判員の選出

- 6-1 参加チームは下記のとおり、認定審判員を選出しなければならない。
選手5～20名＝1名、同21～40名＝2名、同41名以上＝3名。
ただし、何かの理由で審判員が参加できなくなった場合は、必ず代替りの者を選出すること。
- 6-2 参加する審判員の方は、別紙審判員・スタッフ参加募集要項の「審判員・スタッフ参加申込書」に必要事項を記入し申し込むこと。
- 6-3 2名以上選出するチームは「審判員・スタッフ参加申込書」をコピーして提出すること。
- 6-4 選出する審判員は、C級認定審判員資格以上を取得し、選手として登録していないこと。
※申込締切期日までに審判員資格を取得していること。
※申込締切期日までに年会費の振込が完了していること。

- 6-5 選出する審判員は2日間を通じて参加できること。なお、2日間を通じて審判員を選出できないとき（やむを得ず参加日ごとに審判員が入れかわる場合）は、主催者は距離が近い方の1名分の交通費（上限¥5,000円）のみを支給する。
- 6-6 審判員参加に関わる交通費（上限5,000円）、宿泊費、朝食、昼食は別紙「審判員・スタッフ募集要項」に基づき主催者が負担する。なお、準一般会員の方には交通費・交通費の支給はないものとする。
- 6-7 選出する審判員は、BLS以上の資格を所有していなければならない。
※申込締切期日までに、必ずBLS以上の資格を取得していること。

7 競技器材

- 7-1 競技で使用する器材はライフセービング競技規則「競技器材の規格」の基準を満たさなければならない。
- 7-2 プール競技で使用するレスキューチューブ、マネキン、スローライン、障害物は主催団体が用意するものとする。
- 7-3 主催団体は、競技者の競技器材の検査・再検査を競技前、競技中、競技終了後任意に行うことができる。競技器材が基準を満たしていない場合は、その競技者はその器材を使用できないか、または失格となる。

8 競技規則

- 8-1 「ライフセービング競技規則（2016年版）」に則って行う。
- 8-2 本大会のスタート方法については、2回制とする。

9 その他

- 9-1 大会中に大会主催者および大会主催者が認めた者が撮影した写真、映像をライフセービングの広報の目的で使用することがある。
- 9-2 大会中に大会主催者が撮影を制限したり、拒否したりすることがある。
- 9-3 大会主催者への提出書類の記載事項に虚偽が認められた場合、大会への参加や記録が取り消されることがある。

(以上)

■100mレスキューチューブトウ (Rescue Tube Tow-100m)

- (1) 競技人数
競技者1名
- (2) 使用器材
レスキューチューブ
- (3) コース
- (4) 競技の方法
- ① スタートは、プール競技総則（飛込スタート）に準じる。
 - ② 競技者は、レスキューチューブをつけて50m泳ぐ。レスキューチューブを付けてスタートする場合、レスキューチューブの本体と紐は、競技者の判断で指定されたコース内に位置させる。ただし、競技者は、レスキューチューブを付けたスタートが安全にできるようにしなければならない。
 - ③ 競技者は、折返しの壁をタッチした後、プールの壁から5m以内でレスキューチューブのオーリングとクリップの部分を正しくつけ、ゴールまでそれを引っ張る。
 - ④ 競技者は、できるだけ速やかにレスキューチューブの紐を十分に伸ばした状態にしなければならない。
 - ⑤ レスキューチューブのオーリングとクリップの部分が途中外れた場合は失格とする。
 - ⑥ 50m地点で壁にタッチする前にレスキューチューブ本体に触れてはならない。
 - ⑦ ゴールはレスキューチューブを正しく引いている状態で、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチすること。
- (5) 失格
総則（共通・プール競技総則）の違反に加えて、次のような場合は失格となる。
- ① 種目別の競技規則に違反した場合。
 - ② 競技者が折返しの壁をタッチする前にレスキューチューブ本体に触れた場合。
 - ③ レスキューチューブのオーリングをクリップに正しくつけなかった場合。

- ④ レスキューチューブのオーリングをクリップにつける際、競技者が5m ラインを越えてしまった場合。
- ⑤ 競技中にレーンロープを握ったり、引っ張った場合。
- ⑥ レスキューチューブを正しく引いていない状態でゴールの壁をタッチした場合。
- ⑦ 競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合。

■4×50m レスキューチューブリレー (4×50m Rescue Tube Relay)

(1) 競技人数

4 名

(2) 使用器材

レスキューチューブ

(3) コース

(4) 競技の方法

- ① スタートは、プール競技総則（飛込スタート）に準じる。
- ② 第1競技者はスタートの合図の後、レスキューチューブをつけて50m 泳ぎ壁にタッチする。レスキューチューブを付けてスタートする場合、レスキューチューブの本体と紐は、競技者の判断で指定されたコース内に位置させる。ただし、競技者はレスキューチューブを付けたスタートが安全にできるようにしなければならない。
- ③ 第2競技者は少なくとも一方の手で壁に触れるか、またはスターティンググリップを掴んで水中で待機し、第1競技者が壁にタッチした後、レスキューチューブの肩掛けの部分を受け取る。その後、50m泳ぎ壁にタッチする。
- ④ 第3競技者も第2競技者と同様に、少なくとも一方の手で壁に触れるか、またはスターティンググリップを掴んで水中で待機し、第2競技者が壁にタッチした後、レスキューチューブの肩掛けの部分を受け取る。その後、50m泳ぎ壁にタッチする。
- ⑤ 第4競技者も第2、第3競技者と同様に、少なくとも一方の手で壁に触れるか、またはスターティンググリップを掴んで水中で待機し、第3競技者が壁にタッチした後、レスキューチューブの肩掛けの部分を受け取る。
- ⑥ 第4競技者は、レスキューチューブをつけ50m泳ぎ、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチする。
- ⑦ 第2競技者は第1競技者が、第3競技者は第2競技者が、第4競技者は第3競技者が50mを泳ぎ壁にタッチする前にレスキューチューブに触れてはならない。

(5) 失 格

総則（共通・プール競技総則）の違反に加えて、次のような場合は失格となる。

- ① 種目別の競技規則に違反した場合。
- ② 第1、第2、第3競技者が、それぞれ折返しの壁にタッチする前に第2、第3、第4競技者が、スタートした場合。
- ③ 第1、第2、第3競技者が、それぞれ折返しの壁にタッチする前に第2、第3、第4競技者が壁やスターティンググリップから離れた場合。
- ④ 競技中にコースロープを握ったり、引っ張った場合。
- ⑤ 第1、第2、第3競技者が、それぞれ折返しの壁にタッチする前に第2、第3、第4競技者がレスキューチューブ（肩掛け部分、紐、その他全ての部分を含む）を触った場合。
- ⑥ 第4競技者が、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合。
- ⑦ 1人の競技者が、2 つまたはそれ以上の区間に出場した場合。
- ⑧ 競技者が、自分の区間を終了した後に、再度プールに入った場合。

(以上)